
挑戦中 ~ TWENTY FOUR HOURS ~

ゆうやん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

挑戦中〜TWENTY FOUR HOURS〜

【Nコード】

N3192Y

【作者名】

ゆうやん

【あらすじ】

更新未定の無謀企画。

元ネタは当然ジャンプ。。。中の挑戦中です。

ちょっと書いてみたかったです、もしかしたら後に削除予定です。

第一章 縛りの恐ろしさ

??

「こんにちはー」

今宵一人の男が…
あるミッションに挑む、それは…

スタッフ

「24時間以内に『ポケットモンスタールビー』を全部クリアできるのか!？」

??

「……………はあ!？」

明らかに簡単そうに見えられるこのミッションに成功すればなんでも欲しいものが一つ手に入る!

果たして24時間でゲームを全クリすることができるのか!？

これは挑戦者の24時間を追った真実の物語である。

挑戦中} TWENTY FOUR HOURS }

? ?

「ここであってるのかな？」

とあるビルの一室に呼び出された挑戦者。
その人物とは…

ゆうやん

「新しい企画やるんで来てくださいだとき。よくわからねえ…」

ご存知小説の作者である逃走中同盟、ゆうやん。

毎回「（・・・）どやあ…」しながら小説を投稿する様はは
かたなくうざいと評判の彼。

今回も調子に乗って一人での企画となった。

ゆうやん

「ってか何故にゲームキューブが…？なんか紙も置いてあるし…」

その一室は決して広いとはいえない狭さ。

例えるのならどこの家にもあるような子供部屋の広さと同じくらいだろう。

ただし家ならまだましもビルに来てここに呼び出されるのだから狭いと感じても仕方がない。

とりあえず自分は目の前の紙（アンケート用紙）をよく読んで、ジーンズの後ろポケットに入れてあったミニドクターグリップ（１）で記入することにした。

１ ミニドクターグリップ

この小説の作者、ゆうやんが愛用しているペン。

ドクターグリップの小さいverと言って良いだろう。

与えられた物は大事に使う彼はこれを６年間ずっと使い続けている。なお当初はシルバーだったこのペンも使い続けて見事に脱色してしまった。恐るべし。

アンケートを書き終えると同時にスタッフらしき人物が部屋と入ってきた。

あまりのタイミングにどこかで監視されているのではないかと思ってしまう。

スタッフ

「今日あなたにここに来てもらったのには理由があります。それはあなたにある企画をやってもらうためです」

アンケート内容・そして目の前のゲームキューブとTVを見れば大体予想はついていた。
しかしスタッフはそれを越える発言をすることになる。

スタッフ

「挑戦中」 TWENTY FOUR HOURS「 24時間以内に『ポケットモンスタービー』を全部クリアできるのか!？」

ゆうやん

「……………はあ!？」

馬鹿馬鹿しくてなおさらびっくりした。

理由は簡単だ、24時間以内になんてすぐに出来るからだ。

それもそのはずビー・サファイアはすでに全クリ済み。

エメラルドにいたってはバトルフロンティアを何十時間もやるほどはまっている。

そんなことをするために俺はここに来たと言うのか。

スタッフ

「ただしもちろん縛り内容があります。それは順次アシスタントによつて伝えられていきます。」

縛り…ポケモンをさらに面白くするためのものだ。
過去にはアイマスクを装着してプレイする強敵も。
さすがにそこまでやれる自信はない。
どんな内容か聞くのが怖くなった。

平沢唯

「あつ…あの…！今回ゆうやん君のアシスタントをやらしていただきますっ！」

しかし可愛すぎるアシスタントの登場でそんな事はもう忘れてしまった。

これもまた作戦なのか？

その時はまだ知るはずもない。

スタッフ

「それでは参りましょう。TWENTY FOUR HOURS

」 『24時間でポケットモンスタールビーを全部クリアできるのか！？』」

ゆうやん・唯

「レッツゴー！」

GAME START AM 10:00

ゲームをセットしたりの準備が終わり、ついに挑戦者である俺の24時間の挑戦が始まったのであった。

今回プレイしてもらうゲームは『ポケットモンスタービー』。
2002年11月21日に発売されたゲームボーイアドバンス用ゲームソフト。

ジャンルはRPGで世界中から愛されているポケットモンスターシリーズ本編の第3作である。

挑戦者はこのゲームを全クリ（＝全部クリア）の基準となる四天王撃破をもらう。

ただし行く先々で縛り内容が明らかとなっていく。
それに従いつつ24時間以内に四天王を倒すのだ。

唯

「欲しい物はパソコンだっけ？」

ゆうやん

「そうだよ、ノートパソコンがあるんだけどそれとは別にもう一つ

大きいものが欲しくてね」

唯

「すごいね〜ならクリアしないとだね」

ゆうやん

「早く終わらせて帰りたいよ…」

なお24時間以内にこれをクリアすると今一番欲しいものが手に入る。

事前アンケートではパソコンと書いたゆうやんはそれを手に入れるためにも頑張る事になった。

ゲーム画面上にはオダマキ博士が登場。
いつも通り名前を聞いてくる。

ゆうやん

「そうだな、名前はユイにしようか」

唯

「それってもしかして…」

ゆうやん

「うん、平沢さんの名前から取ったよ。今まで女性プレイヤー選んだことがなかったから折角の機会だしね」

名前を設定後、昔やったソフトを懐かしみつつ最初のバトルへ…

ゆうやん

「なつかしいな…この博士襲われるとかなにしてるんだろう（笑）」

唯

「結局誰も行かないと考えると…なんか怖い（汗）」

ゆうやん

「とりあえずなんでも水ポケモンから入るから今回もミスゴロウで行こうかな」

V S L V ・ 2 の ポ チ エ ナ 戦

こちらはたいあたり・なきごえを覚えている L V ・ 5 の ミ ス ゴ ロ ウ 。
もはや結果は語るまでもない。

唯

「もし自分が本当にこれでポケモンもらったらどうする？」

ゆうやん

「そうだな…家に引きこもるかも（笑）」

唯

「ちゃんと仕事しろっ！」

ゆうやん

「ですよー」

。 対戦後もらつことになったミスゴロウのニックネームは「ミスハス」

「ミス…ミス…そうだミスハスにしよう！」ということからつけた名前だ。

元ネタは声優さんです。知っている人は知っている。

ゆうやん

「よーしっ！早速草むらで『ちよつと待って！』…ん？」

ここでアシスタントの唯が叫びだす。
一体どうしたというのか。

唯

「縛り内容その1。草むらにて野生ポケモンを倒すべからず」

ゆうやん

「…まあ基本か」

ここに出されたのは縛り内容1。

その名も『草むらにて野生ポケモンを倒すべからず』

内容は全くその通りで草むらで野生ポケモンを倒してレベル上げをすることは禁じるというのだ。

もし倒してしまったらその場で10分間待たないといけないことになる。

ゆうやん

「でも問題ない。草むらとかでレベルをこつこつ上げるのは嫌いだからね」

唯

「実は私もそうなんだよね。だからいつも妹の憂に難いところを助けてもらってるよ」

ゆうやん

「ちなみにその妹さんはどんな実力で？」

唯

「なんか地区のポケモンの大会で優勝したことがあるらしいよ」

ゆうやん

「（…さすがは万能シスター！）」

そんなこんなで談話をしつつゲームをさくさくとプレイしていく。
やはり昔何度もやったゲーム。
そう簡単には忘れてはいない。
あつという間に最初のライバル戦へと突入となった。

V S ライバル戦^{ユウキ}

相手はこちらの弱点である草タイプのポケモン、キモリ。
しかしLv5のため草タイプの技は覚えていない。
大抵ここでの勝負は勝って当たり前だが急所に当たったりで負けて
しまう可能性もある。

ゆうやん

「念には念を…ってことでなきごえを」

唯

「あれ？たいあたりしないの？」

ゆうやん

「確実に勝ちたいからね。なきごえで攻撃力をある程度減らすよ。」

ここで俺はいつもはやらないプレイに出る。

普段ならたいあたりのごり押しだがあえてここはなきごえで相手の攻撃力を減らす。

これによって後々に有利に運ぶ作戦だ。

ただごり押しでいつも行くタイプなので性に合わないが縛りもあるためここでの戦いは絶対に制したい。

ということでなきごえを最初に選択、後にたいあたりをやる。

結果相手は最初有利だったのにも関わらず喰らうはずのはたぐが1にまで落ちていった。

この隙に俺はたいあたりのごり押し。圧勝である。

唯

「なんか憂を見てるみたいだよ……」

ゆうやん

「まあ昔やったゲームだからな、これくらいはできて当然かも」

ミズハスはこれでLv6に。
どころけも覚えてこれからの活躍に期待がもてる。

その後一旦オダマキ博士の所へと戻るユウキ、ユイの一行。
そこで初めて博士から図鑑を、ユウキからモンスターボールを貰う
事に。

またお母さんからランニングシューズをもらうことでさらにペース
アップ。
ここまでは順調に来ている。

唯

「ボールもらっただけど何捕まえるの？」

ゆうやん

「もちろんラルトスに決まってるよ！」

唯

「ラルトス…って捕まえにくいポケモン？」

ゆうやん

「そう、サーナイトまで育てて行きたいからね」

ポケモンの中で一番好きなのはサーナイトである自分。
というのも以前やっていたポケモンカードで切り札となっていたレ
アカードがサーナイト。
彼女？の強さにはもう見ているこっちもやられたものだ。

ゆうやん

「今までは性別関係なかったけど今回は♀のラルトスを捕まえると
宣言するよ！」

唯

「うおーっ！かつこいい！」

ちなみに102番道路にてラルトスが出現する確率は4%。
そのうちのメスと考えれば単純計算で2%。
時間がかかる分後に頼りになっっていく存在なのだ。

ゆうやん

「というわけで…レッツゴー！」

しかしこの油断が後に命取りとなることを彼はまだ知らなかったのだ…。

ゆうやん

「またケムツン…」

唯

「さっきアメタマが出たのにね…情報によると1%の確率で出るみたい」

ゆうやん

「しかし俺は諦めない！諦めないぞ！」

〽1分後〽

「…だね」

ゆうちゃん

「…（´・ω・´）」

↓にげる

↓さらに10分後↓

二度のラルトスの登場もどちらも。

（´・ω・´）顔でにげるを押す自分はもう可愛そうに思えてくる。
なんであんなこといったんだろうか。

後悔したくなる。

唯

「大丈夫だよ！ほらっ！そろそろ出てくるはず…」

ゆうやん

「あれから一度も出ない…orz」

唯

「がんばれがんばれ出来る出来る！お米食べる！」

ゆうやん

「それどこで覚えた？」

唯

「なんか記憶の奥底に…」

しかしアシスタントが唯だからだろうか。
彼女の言葉に何度救われただろうか。
(まだ開始30分です)

そしてついに…

ゆうやん

「ラルトス！頼む！」

その時が来たのであった…！

唯

「♀のラルトス…ついに来た！」

ゆうやん

「いやったあああああああああああああ！」

探し始めてから15分（ これでも速いほうです）
ようやくラルトス♀Lv.4との出会いに成功した。

ゆうやん

「ま…まだ…くぁwせdrftgyふじこlp」

唯

「ゆうやん君！落ち着いてよ！」

あまりの興奮にパニックになる自分。
しかし彼女の声にまたしても助けられ、我に返る。

ゆうちゃん

「とりあえずどろかけで命中率を…」

なにを思っ たかどろかけを選択。
命中率を下げるのが目的らしいが…

唯

「相手もなきごえやってきてるね」

ゆうちゃん

「いや…これはこれで助かる」

なきごえにより攻撃力が弱まるミズハス。
しかしこれはHPを赤ゾーンまで少しずつ減らすためにかなり役立っている。
お陰で攻撃力が比較的低いどろかけを連発することで捕まえやすい状態へとなっていく。

唯

「これで赤まで行っただね」

ゆうやん

「後は貰ったボールで捕まえるだけだ」

先ほどユウキからもらった5個のモンスターボール。

これで捕まえられなかったらまたしてもラルトスを探さないといけない。

しかしそんなことは絶対にしたくない。

俺はなんとしても捕まえるべく…

ゆうやん

「（カチカチカチカチカチカチカチカチ…！）」

唯

「あー…それ私もたまにやるよ。なんか捕まえやすくなるもんね」

子供の時に誰もがやったと思われるAボタン連打。
たとえ効果がないとわかっていても俺はやり続けていた。

ゆうやん

「頼むぞ…！」

果たしてその結果は…！？

ゆうやん

「一発でキタ

(。°)

!」

唯

「すごい！おめでとう！」

ゆうやん

「ありがとう！ありがとう！」(泣

気づけばもう涙目状態。

もうこれで終わってもいいのではないかと思った。

唯

「ニックネームはなににする？」

ゆうやん

「んー…やっぱりここは『RURU』かな」

唯

「英語！？なんかかつこいい！」

ゆうやん

「ラルトスのルを取って『RURU』。ちよつとしゃれてるけどね」

唯

「じゃあRURUも傷ついているみたいだしポケセンに行こつ♪」

ゆうちゃん

「い え い！」

気分上々のままポケセンへと入る俺。

しかし気づくべきだった。

何故唯はポケセンへと誘導したのかを……！

唯

「縛り内容2。一番お気に入り以外のポケモンを使うべからず」

ゆうちゃん

「えっ！？」

ゲームスタートから40分経過 AM10:40

～現在の状況～

Lv.4 ラルトス R U R U ♀

とくせい：トレース（相手と同じ特性になる）

性格：やんちゃ

HP：17 攻撃：7 防御：8 特殊攻撃：9 特殊防御：7
素早さ：9

覚えている技：なきごえ（40/40） ノーマル

～次回予告～

ラルトスゲットで調子にのったゆうやん。
さあ冒険だ！と言つところでアシスタントから衝撃の言葉が出される。

唯

「縛り内容2。一番お気に入りのポケモン以外を使うべからず」

ゆうやん

「…えっ!？」

さすがのゆうやんも驚く。

つまりお気に入りのポケモンであるラルトス以外は使つてはいかないということだ。

今回のポケモンの主な内容。

それは「ラルトス一匹でポケモンを制覇せよ!」ということだったのだ!

ゆうやん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3192y/>

挑戦中～TWENTY FOUR HOURS～

2011年11月7日17時06分発行